



## 2024年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年10月12日

上場会社名 株式会社 シーズメン  
コード番号 3083 URL <http://www.csmen.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植杉 泰久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 保住 光良

TEL 03-5623-3781

四半期報告書提出予定日 2023年10月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年2月期第2四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	2,863	8.4	0		0		7	
2023年2月期第2四半期	3,126	58.4	196		189		212	

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 7百万円 ( %) 2023年2月期第2四半期 212百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	2.60	
2023年2月期第2四半期	73.64	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第2四半期	2,283	823	36.1	285.84
2023年2月期	2,428	851	33.6	283.25

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 823百万円 2023年2月期 816百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		0.00		0.00	0.00
2024年2月期		0.00			
2024年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,865	7.0	60		50		5		1.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期2Q	2,882,800 株	2023年2月期	2,882,800 株
期末自己株式数	2024年2月期2Q	112 株	2023年2月期	112 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期2Q	2,882,688 株	2023年2月期2Q	2,882,717 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

なお、業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	9
3. その他 .....	9
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、経済社会活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、円安の進行、不安定な国際情勢を背景とするエネルギー・原材料価格の高騰、国内物価の上昇など、先行きは不透明な状況が続いております。

衣料品小売業界におきましては、生活必需品の値上げが続く環境において、消費者の購買行動は生活防衛にシフトしており、経営環境は厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、下記の対策を実施してまいりました。

#### (株式会社シーズメン)

郊外ショッピングセンターやモールでミドルプライス衣料品の販売を主たる事業として展開する第1事業部では、商品面におきましては、「METHOD」「流儀圧搾」とともに、独自性が高いナショナルブランドや和柄ブランド商品の品揃えを強化し、販売単価の向上に取り組みました。また、7月には盛夏商品、セール商材の販売強化を行うとともに、各店舗及びECサイトで秋物のブランド限定商品の予約会を開催し、セール後の8月の売上高の確保を図りました。

販売面におきましては、エリアマネージャー及びバイヤーが参加するミーティングを定期的を実施し、販売方法の成功例や見本となる売場づくりを共有し、全店舗へ情報を発信することで、各店舗における販売方針の理解と取組みの強化を図ってまいりました。

店舗展開におきましては、当第2四半期連結累計期間における出店はなく、退店は1店舗、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は「METHOD」18店舗、「流儀圧搾」9店舗、「AGIT POINT」1店舗、「G-LAND」1店舗、「FACETASM」1店舗の合計30店舗となりました。

都心部ファッションビルや百貨店でハイプライス衣料品の販売を主たる事業として展開する第2事業部では、商品面におきましては、高気温が想定された第2四半期前半は半袖商品の積み増しを行い、8月に入ってデニム、柄シャツ、レザー等の早期投入を行うことにより店頭の新鮮度を演出し、感度の高いお客様の入店を促しました。

販売面におきましては、販売スタッフの教育の場を設け、セール期間における従来の値引き施策を抑制し、定価販売比率の向上に努めることを共有することで、ブランド価値向上を図りました。また、当社の強みであるボトムを軸とした施策、及び販売に注力し、スタイリング販売による新規顧客の開拓を進めました。

店舗展開におきましては、当第2四半期連結累計期間における出店及び退店はなく、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は「TORNADO MART」12店舗、「TORNADO MART WORLD」5店舗、「HIGH STREET」7店舗、「BLUE TORNADO」1店舗、「TORNADO MART OUTLET」1店舗の合計26店舗となりました。

#### (株式会社チチカカ)

郊外ショッピングセンターやモールでエスニックカジュアル衣料品・雑貨の販売を主たる事業として展開するチチカカでは、商品面におきましては、大量仕入れ・大量販売からの脱却を図るため、新規商品の仕入を絞り込むことにより在庫の効率化を進めました。

販売面におきましては、稼働実績の高いアイテムの定価販売を重点的に強化することで、値引き販売の抑制に取り組みました。また、店舗におきましては好調店舗の販売活動の事例を店舗間で共有することを徹底いたしました。

店舗展開におきましては、当第2四半期連結累計期間における出店はなく、退店は6店舗、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は「チチカカ」37店舗、「アウトレット」1店舗の合計38店舗となりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は28億63百万円（前年同期比△8.4%減）、営業利益は0百万円（前年同四半期は196百万円の損失）、経常損失は0百万円（前年同四半期は189百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7百万円（前年同四半期は212百万円の損失）となり、売上高は前年同期を下回ったものの、利益面では大幅な改善となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産は22億83百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億44百万円減少いたしました。主に、売掛金24百万円等の増加、現金及び預金10百万円、商品1億27百万円、敷金及び保証金40百万円等の減少であります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債は14億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億16百万円減少いたしました。主に、買掛金41百万円等の増加、借入金9百万円、未払費用28百万円、賞与引当金28百万円、資産除去債務36百万円等の減少であります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は8億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ27百万円減少いたしました。主に、利益剰余金7百万円の増加、新株予約権34百万円の減少であります。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、営業活動により45百万円減少、投資活動により45百万円増加、財務活動により10百万円減少し、4億67百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の業績予想につきましては、2023年10月12日付に公表いたしました「第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	477,853	467,528
売掛金	225,147	249,590
商品	954,104	826,602
その他	92,620	111,331
流動資産合計	1,749,725	1,655,053
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,890	4,514
その他(純額)	232	1,248
有形固定資産合計	5,123	5,762
無形固定資産		
のれん	76,548	66,979
その他	822	756
無形固定資産合計	77,370	67,736
投資その他の資産		
敷金及び保証金	589,802	549,393
その他	6,233	5,953
投資その他の資産合計	596,036	555,347
固定資産合計	678,529	628,845
資産合計	2,428,255	2,283,899
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	186,679	227,764
短期借入金	257,720	254,795
1年内返済予定の長期借入金	206,348	205,901
未払費用	153,661	125,136
未払法人税等	25,245	27,407
賞与引当金	40,583	11,893
資産除去債務	51,216	22,790
その他の引当金	4,398	574
その他	129,287	84,807
流動負債合計	1,055,140	961,070
固定負債		
長期借入金	120,072	114,426
退職給付に係る負債	33,446	-
資産除去債務	363,339	354,808
その他	4,829	29,597
固定負債合計	521,687	498,832
負債合計	1,576,828	1,459,902

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	899,296	899,296
利益剰余金	△132,708	△125,227
自己株式	△72	△72
株主資本合計	816,515	823,996
新株予約権	34,911	-
純資産合計	851,427	823,996
負債純資産合計	2,428,255	2,283,899

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
売上高	3,126,194	2,863,296
売上原価	1,349,280	1,205,160
売上総利益	1,776,913	1,658,136
販売費及び一般管理費	1,973,171	1,657,457
営業利益又は営業損失(△)	△196,257	678
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	0	0
助成金収入	11,657	697
受取補償金	-	5,000
その他	14,736	1,669
営業外収益合計	26,399	7,370
営業外費用		
支払利息	4,445	3,802
為替差損	14,215	3,499
その他	1,004	771
営業外費用合計	19,665	8,072
経常損失(△)	△189,523	△23
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	6,562	-
新株予約権戻入益	-	34,911
特別利益合計	6,562	34,911
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△182,961	34,887
法人税、住民税及び事業税	29,323	27,406
法人税等合計	29,323	27,406
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△212,285	7,481
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△212,285	7,481

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△212,285	7,481
四半期包括利益	△212,285	7,481
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△212,285	7,481
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△182,961	34,887
減価償却費	1,698	757
のれん償却額	9,568	9,568
新株予約権戻入益	-	△34,911
賞与引当金の増減額(△は減少)	14,142	△28,690
支払利息	4,445	3,802
売上債権の増減額(△は増加)	△59,368	△24,443
棚卸資産の増減額(△は増加)	△36,488	127,502
仕入債務の増減額(△は減少)	△91,010	41,085
その他	△108,727	△145,758
小計	△448,703	△16,199
利息及び配当金の受取額	5	3
利息の支払額	△4,815	△4,293
法人税等の支払額	△28,758	△25,245
営業活動によるキャッシュ・フロー	△482,272	△45,735
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△5,228	△1,144
無形固定資産の取得による支出	△4,826	-
敷金及び保証金の回収による収入	35,603	87,425
敷金の差入による支出	△3,406	△209
資産除去債務の履行による支出	△28,155	△40,518
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	419,476	-
その他	△858	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	412,606	45,553
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△29,356	△2,925
長期借入金の返済による支出	△39,794	△6,093
自己株式の取得による支出	△33	-
リース債務の返済による支出	△1,105	△1,125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70,289	△10,143
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△139,955	△10,325
現金及び現金同等物の期首残高	701,498	477,853
現金及び現金同等物の四半期末残高	561,542	467,528

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(財務制限条項)

当社連結子会社である株式会社チチカカが金融機関から借り入れている借入金の一部(146,220千円)について、取引銀行3行とシンジケートローン契約を結んでおります。この契約には、下記の財務制限条項が付されております。

①単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、2019年4月中間期末日の純資産の金額以上に維持すること。

②単体の損益計算書上の経常損益につき損失を計上しないこと。

当社連結子会社である株式会社チチカカは、当第2四半期連結会計期間及び当第2四半期累計期間において上記事項に抵触しております、しかしながら、借入先の金融機関より、期限の利益の喪失に係る権利行使を行わない旨の同意を得ております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年8月31日)

当社は、衣料品小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年8月31日)

当社は、衣料品小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで継続して営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況が存在しております。

このような状況のもと、シーズメンにおいてはオリジナルブランド開発の推進やレディース商品販売の強化を進めております。また、チチカカでは、引き続き不採算店舗の閉鎖による経営基盤の強化を行うとともに、シーズメンとの各種機能統合によるシナジーの創出を進め、営業力の強化とコスト効率の向上に取り組み、収益の改善を目指してまいります。

当第2四半期連結累計期間においては、前連結会計年度から実施しております不採算店舗の撤退や商品仕入れの精度向上、コスト削減策など収益改善策の効果に加えて、新型コロナウイルスの影響の軽減等により、業績は回復しており、資金繰りの改善が見込まれます。

以上により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。